

# 第11章 人口移動

## 1 5年前の常住地

### 移動しない人が増加

ここでいう人口移動とは、「5年前の住居の所在地」による結果からみた、常住地（ふだん住んでいる場所）の変更に伴う人口の地域間移動の状況をいいます。前回調査日以降に生まれた子を除く5歳以上人口（3,504,975人）のうち、5年前に現住所以外の場所に住んでいた者（移動人口）は844,795人で、5歳以上人口に占める割合（移動率）は24.1%となっており、約4人に1人がこの5年間に住所を移動しています。これを平成12年と比べると、移動人口は302,788人（26.4%）の減少、移動率は11.2ポイントの低下となっています。

移動人口を5年前の常住地別にみると、同じ区内の他の場所（以下「自区内」という。）が270,170人（5歳以上人口の7.7%）、市内の他区（以下「他区」という。）が197,134人（同5.6%）、県内の他市区町村（以下「県内」という。）が92,925人（同2.7%）、他の都道府県（以下「他県」という。）が259,336人（同7.4%）、「国外」が25,230人（同0.7%）となっており、「自区内」の移動率が最も高くなっています。移動率を平成12年と比べると、「自区内」は4.8ポイント、「他区」は2.9ポイント、「県内」は1.1ポイント、「他県」は2.2ポイント、「国外」は0.3ポイントの低下となっています。移動人口を男女別にみると、男性は427,983人、女性は416,812人で、移動率はそれぞれ24.4%、23.8%となっています。しかし、移動人口の人口性比（女性100人に対する男性の数）でみた場合、平成12年が112.4であったのが22年は102.7と、男女間の格差は縮まっています。（表11-1）

表11-1 男女、5年前の常住地別5歳以上人口（平成12年、22年）

5年前の常住地	平成12年			22年			平成12年～22年の増減	
	平成12年	男	女	22年	男	女	増減数	増減率(%)
実数								
常住者 1)	3,251,472	1,643,861	1,607,611	3,504,975	1,751,327	1,753,648	253,503	7.8
現住所	2,103,849	1,036,502	1,067,347	2,383,891	1,158,602	1,225,289	280,042	13.3
現住所以外（移動者）	1,147,583	607,336	540,247	844,795	427,983	416,812	△ 302,788	△ 26.4
市内	681,566	356,939	324,627	467,304	230,975	236,329	△ 214,262	△ 31.4
自区内	406,444	217,876	188,568	270,170	133,647	136,523	△ 136,274	△ 33.5
他区	275,122	139,063	136,059	197,134	97,328	99,806	△ 77,988	△ 28.3
市外から（転入）	466,017	250,397	215,620	377,491	197,008	180,483	△ 88,526	△ 19.0
県内から	122,545	63,013	59,532	92,925	46,834	46,091	△ 29,620	△ 24.2
他県から	312,538	171,693	140,845	259,336	137,565	121,771	△ 53,202	△ 17.0
国外から	30,934	15,691	15,243	25,230	12,609	12,621	△ 5,704	△ 18.4
割合 (%)								
常住者 1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
現住所	64.7	63.1	66.4	68.0	66.2	69.9	-	-
現住所以外（移動者）	35.3	36.9	33.6	24.1	24.4	23.8	-	-
市内	21.0	21.7	20.2	13.3	13.2	13.5	-	-
自区内	12.5	13.3	11.7	7.7	7.6	7.8	-	-
他区	8.5	8.5	8.5	5.6	5.6	5.7	-	-
市外から（転入）	14.3	15.2	13.4	10.8	11.2	10.3	-	-
県内から	3.8	3.8	3.7	2.7	2.7	2.6	-	-
他県から	9.6	10.4	8.8	7.4	7.9	6.9	-	-
国外から	1.0	1.0	0.9	0.7	0.7	0.7	-	-

1) 5年前の常住地「不詳」を含む。

## 2 男女、年齢別の5年前の常住地

### 移動率は30歳代前半が49.4%と最も高い

移動率を年齢階級別にみると、5～9歳は35.8%で、10～19歳は20%台に低下しますが、20歳からは年齢が上がるにつれ上昇し、30～34歳では49.4%と最も高くなっています。その後は年齢が上がるにつれ、低下しています。そして、70～74歳で8.3%と最も低くなりますが、75歳以上では12.3%と再び上昇します。

また、平成12年に比べ、全年齢階級で低下しています。(図11-1、表11-2)

### 25～34歳の女性は移動率が高い

移動率を男女別にみると、25～34歳及び75歳以上では特に女性のほうが高くなっています。40～69歳では、男性のほうが高くなっています。(図11-2、表11-2)

図11-1 年齢（5歳階級）別移動率（平成12年、22年）

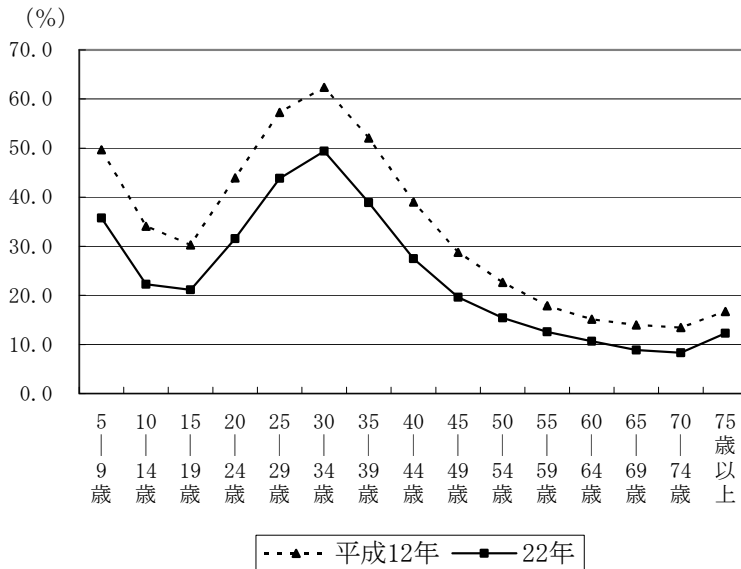


図11-2 男女、年齢（5歳階級）別移動率（平成22年）

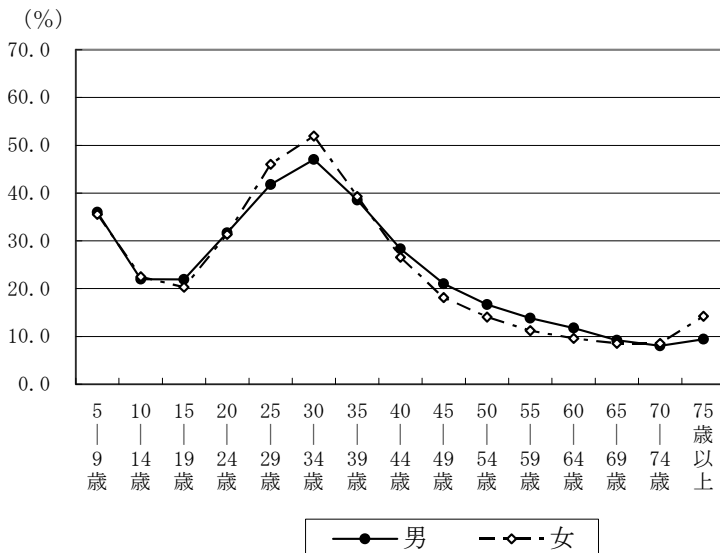


表 11-2 年齢（5歳階級）、男女別5歳以上人口の5年前の常住地別割合  
 （常住者を100とした場合）（平成12年、22年）

（単位：％）

男 女、 年 齢	平成12年							22年						
	現住所	現住所以外（移動者）						現住所	現住所以外（移動者）					
		総数	自区内	他区	県内	他県	国外		総数	自区内	他区	県内	他県	国外
総数	64.7	35.3	12.5	8.5	3.8	9.6	1.0	68.0	24.1	7.7	5.6	2.7	7.4	0.7
5～9歳	50.4	49.6	19.7	12.6	4.7	10.9	1.7	58.0	35.8	15.1	7.8	3.1	8.6	1.1
10～14	65.9	34.1	16.1	7.1	2.5	6.9	1.5	72.1	22.2	10.7	3.6	1.4	5.3	1.1
15～19	68.8	31.2	12.3	5.9	2.1	10.0	1.0	71.8	21.2	7.8	3.4	1.3	7.7	0.9
20～24	56.1	43.9	11.2	7.3	3.8	20.5	1.1	56.5	31.5	5.8	4.5	2.7	17.2	1.3
25～29	42.7	57.3	14.1	14.1	8.3	19.6	1.2	41.0	43.8	8.7	9.4	6.2	17.9	1.5
30～34	37.6	62.4	16.8	16.9	8.9	18.3	1.4	37.6	49.4	12.2	12.8	7.4	15.9	1.2
35～39	47.9	52.1	17.7	13.2	6.0	13.3	1.9	50.7	38.9	12.0	9.8	4.9	11.2	1.0
40～44	61.0	39.0	16.1	8.9	3.6	8.8	1.7	63.3	27.4	9.8	6.2	2.8	7.6	1.0
45～49	71.2	28.8	13.0	6.9	2.4	5.6	0.9	72.5	19.6	7.5	4.3	1.8	5.3	0.8
50～54	77.4	22.6	10.2	5.7	2.0	4.3	0.5	78.5	15.4	5.8	3.7	1.4	3.9	0.5
55～59	82.1	17.9	8.3	4.5	1.6	3.1	0.3	82.0	12.6	4.8	3.3	1.2	3.0	0.3
60～64	84.9	15.1	7.5	3.9	1.3	2.3	0.2	85.0	10.7	4.4	3.1	1.0	2.1	0.2
65～69	86.0	14.0	6.9	3.7	1.2	2.1	0.1	87.1	8.9	3.8	2.7	0.8	1.5	0.1
70～74	86.5	13.5	6.5	3.6	1.1	2.2	0.1	88.0	8.3	3.5	2.6	0.8	1.4	0.0
75歳以上	83.3	16.7	7.5	4.6	1.4	3.2	0.0	82.1	12.3	4.4	4.0	1.2	2.6	0.0
男	63.1	36.9	13.3	8.5	3.8	10.4	1.0	66.2	24.4	7.6	5.6	2.7	7.9	0.7
5～9歳	50.4	49.6	19.8	12.6	4.7	10.8	1.6	57.9	36.0	15.2	7.8	3.1	8.7	1.2
10～14	66.0	34.0	16.3	6.9	2.4	6.8	1.5	72.3	22.0	10.8	3.5	1.4	5.1	1.2
15～19	68.1	31.9	12.3	5.6	2.0	11.0	1.0	70.5	21.9	7.8	3.2	1.3	8.8	0.8
20～24	54.1	45.9	11.6	6.4	3.4	23.5	1.0	54.5	31.7	5.3	3.9	2.4	19.0	1.1
25～29	43.8	56.2	14.4	12.8	7.4	20.6	1.1	40.1	41.8	7.9	8.5	5.7	18.3	1.4
30～34	38.2	61.8	17.0	16.9	9.1	17.5	1.3	37.2	47.0	11.5	12.5	7.2	14.8	1.0
35～39	45.6	54.4	18.0	14.0	6.6	14.0	1.8	48.7	38.5	11.5	10.1	5.1	11.0	0.9
40～44	57.7	42.3	16.9	9.6	4.1	10.0	1.8	60.5	28.3	9.6	6.5	3.0	8.2	1.0
45～49	68.4	31.6	14.1	7.1	2.6	6.9	1.0	69.3	21.0	7.5	4.4	2.0	6.3	0.8
50～54	74.8	25.2	11.4	5.8	2.1	5.2	0.7	75.7	16.7	5.9	3.7	1.5	4.9	0.7
55～59	80.0	20.0	9.6	4.6	1.7	3.8	0.4	79.2	13.8	5.1	3.4	1.3	3.7	0.4
60～64	83.7	16.3	8.6	3.8	1.3	2.4	0.2	82.6	11.7	4.8	3.3	1.1	2.4	0.2
65～69	85.6	14.4	7.7	3.6	1.1	1.9	0.1	85.6	9.2	4.1	2.8	0.8	1.4	0.1
70～74	86.5	13.5	7.2	3.3	1.0	1.9	0.1	87.6	8.0	3.6	2.5	0.7	1.1	0.1
75歳以上	85.2	14.8	7.9	3.5	1.0	2.3	0.0	85.5	9.4	3.5	3.1	1.0	1.8	0.0
女	66.4	33.6	11.7	8.5	3.7	8.8	0.9	69.9	23.8	7.8	5.7	2.6	6.9	0.7
5～9歳	50.3	49.7	19.5	12.5	4.8	11.0	1.8	58.2	35.5	14.9	7.9	3.2	8.5	1.1
10～14	65.8	34.2	15.9	7.3	2.5	7.0	1.6	71.9	22.5	10.7	3.7	1.5	5.4	1.1
15～19	69.5	30.5	12.3	6.2	2.1	8.9	1.0	73.3	20.3	7.9	3.5	1.4	6.6	0.9
20～24	58.3	41.7	10.8	8.2	4.3	17.2	1.2	58.7	31.4	6.3	5.2	3.1	15.2	1.5
25～29	41.5	58.5	13.7	15.5	9.3	18.6	1.4	42.1	46.0	9.6	10.5	6.8	17.5	1.7
30～34	37.1	62.9	16.5	17.0	8.7	19.1	1.6	38.0	51.9	12.9	13.2	7.5	17.0	1.3
35～39	50.5	49.5	17.4	12.3	5.3	12.6	2.0	52.7	39.3	12.5	9.6	4.7	11.4	1.1
40～44	64.6	35.4	15.2	8.1	3.0	7.5	1.6	66.2	26.5	9.9	5.9	2.6	7.1	1.0
45～49	74.2	25.8	11.8	6.6	2.2	4.4	0.8	76.0	18.1	7.4	4.1	1.6	4.1	0.8
50～54	79.9	20.1	9.0	5.5	1.9	3.3	0.4	81.4	14.0	5.8	3.7	1.3	2.9	0.4
55～59	84.1	15.9	7.0	4.5	1.6	2.5	0.2	84.9	11.2	4.6	3.2	1.1	2.2	0.2
60～64	86.1	13.9	6.4	3.9	1.3	2.2	0.1	87.3	9.6	4.0	2.8	0.9	1.8	0.1
65～69	86.4	13.6	6.1	3.9	1.2	2.3	0.1	88.5	8.5	3.5	2.6	0.9	1.5	0.1
70～74	86.5	13.5	5.9	3.8	1.2	2.5	0.1	88.3	8.5	3.5	2.6	0.8	1.5	0.0
75歳以上	82.1	17.9	7.3	5.2	1.6	3.8	0.0	79.8	14.2	5.0	4.7	1.4	3.1	0.0

### 3 家族類型別世帯の5年前の常住地

#### 「単独世帯」の移動率は30.8%

移動率を家族類型別にみると、夫婦のみや夫婦と子供又はひとり親と子供のみで構成される「核家族世帯」では23.6%、「核家族世帯以外の世帯」では13.8%、「非親族を含む世帯」は51.2%、「単独世帯」は30.8%となっています。

また、5年前の常住地別にみると、「他県」及び「国外」からの移動の割合は、「親族のみの世帯」では6.6%となっているのに対し、「非親族を含む世帯」と「単独世帯」ではそれぞれ18.2%、15.8%と高くなっています。(表11-3)

表11-3 世帯主の5年前の常住地、家族類型別一般世帯数(平成22年)

5年前の常住地	総数	親族のみの世帯	核家族以外の世帯		非親族を含む世帯	単独世帯
			核家族世帯	核家族以外の世帯		
実数						
常住者 1)	1,573,882	1,024,634	947,693	76,941	14,246	531,213
現住所	969,800	743,231	679,764	63,467	5,300	221,245
現住所以外(移動者)	405,632	234,686	224,094	10,592	7,287	163,654
市内	204,855	139,567	132,569	6,998	3,606	61,678
自区内	113,146	79,493	75,216	4,277	1,814	31,837
他区	91,709	60,074	57,353	2,721	1,792	29,841
市外から(転入)	200,777	95,119	91,525	3,594	3,681	101,976
県内から	47,301	27,940	26,931	1,009	1,092	18,269
他県から	142,828	60,941	58,571	2,370	2,373	79,514
国外から	10,648	6,238	6,023	215	216	4,193
割合(%)						
常住者 1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
現住所	61.6	72.5	71.7	82.5	37.2	41.6
現住所以外(移動者)	25.8	22.9	23.6	13.8	51.2	30.8
市内	13.0	13.6	14.0	9.1	25.3	11.6
自区内	7.2	7.8	7.9	5.6	12.7	6.0
他区	5.8	5.9	6.1	3.5	12.6	5.6
市外から(転入)	12.8	9.3	9.7	4.7	25.8	19.2
県内から	3.0	2.7	2.8	1.3	7.7	3.4
他県から	9.1	5.9	6.2	3.1	16.7	15.0
国外から	0.7	0.6	0.6	0.3	1.5	0.8

1) 5年前の常住地「不詳」で、当地に現住している世帯主を含む。

## 4 就業者の5年前の常住地

### 遠距離移動の割合が高い「鉱業、採石業、砂利採取業」

15歳以上就業者（1,703,374人）の移動率について、5年前の常住地別割合をみると、「現住所以外」の割合は29.1%で、このうち「自区内」は8.6%、「他区」は6.8%、「県内」は3.5%、「他県」は9.4%、「国外」は0.7%となっています。

これを産業（大分類）別にみると、「農業、林業」は9.5%、「漁業」は8.0%となっている以外は、20%を超えています。

5年前の常住地別割合をみると、「自区内」での移動は「建設業」（10.6%）、「他区」は「複合サービス業」（8.8%）、「県内」は「情報通信業」（5.5%）、「他県」は「鉱業、採石業、砂利採取業」（20.9%）、「国外」も「鉱業、採石業、砂利採取業」（7.7%）が最も高くなっています。（表11-4）

表11-4 5年前の常住地、産業（大分類）別15歳以上就業者数（平成22年）

産業大分類	常住者 1)	5年前の常住地							
		現住所	現住所以外（移動者）						国外 から
			総数	市内			県内 から	他県 から	
総数	自区内	他区							
実数									
総数	1,703,374	1,180,582	495,086	263,308	146,778	116,530	59,669	160,083	12,026
A 農業、林業	7,551	6,816	715	495	327	168	70	144	6
B 漁業	263	242	21	19	14	5	1	1	-
C 鉱業、採石業、砂利採取業	220	128	92	20	10	10	9	46	17
D 建設業	119,733	85,994	32,952	21,231	12,732	8,499	3,544	7,799	378
E 製造業	214,184	144,476	68,812	33,216	18,457	14,759	9,063	23,685	2,848
F 電気・ガス・熱供給・水道業	7,088	5,076	1,987	1,123	548	575	284	567	13
G 情報通信業	121,224	72,312	48,532	21,454	11,181	10,273	6,658	19,222	1,198
H 運輸業、郵便業	105,523	76,205	28,836	17,735	9,670	8,065	3,254	7,349	498
I 卸売業、小売業	286,283	204,932	80,415	43,128	24,632	18,496	9,146	26,378	1,763
J 金融業、保険業	59,749	41,537	18,070	8,499	4,788	3,711	2,031	7,223	317
K 不動産業、物品賃貸業	51,899	39,558	12,207	7,181	3,923	3,258	1,563	3,354	109
L 学術研究、専門・技術サービス業	88,232	59,626	28,333	13,310	7,087	6,223	3,549	10,468	1,006
M 宿泊業、飲食サービス業	96,975	67,791	28,706	15,482	9,046	6,436	2,699	9,603	922
N 生活関連サービス業、娯楽業	59,643	42,764	16,628	9,247	5,265	3,982	1,976	5,160	245
O 教育、学習支援業	77,161	56,145	20,860	10,610	5,756	4,854	2,379	7,064	807
P 医療、福祉	158,540	110,017	47,877	27,375	14,916	12,459	6,369	13,676	457
Q 複合サービス事業	4,675	3,420	1,246	846	433	413	148	251	1
R サービス業（他に分類されないもの）	115,193	85,463	29,274	17,101	9,487	7,614	3,424	8,236	513
S 公務（他に分類されるものを除く）	42,196	27,696	14,348	6,680	3,145	3,535	1,998	5,526	144
T 分類不能の産業	87,042	50,384	15,175	8,556	5,361	3,195	1,504	4,331	784
割合（%）									
総数	100.0	69.3	29.1	15.5	8.6	6.8	3.5	9.4	0.7
A 農業、林業	100.0	90.3	9.5	6.6	4.3	2.2	0.9	1.9	0.1
B 漁業	100.0	92.0	8.0	7.2	5.3	1.9	0.4	0.4	-
C 鉱業、採石業、砂利採取業	100.0	58.2	41.8	9.1	4.5	4.5	4.1	20.9	7.7
D 建設業	100.0	71.8	27.5	17.7	10.6	7.1	3.0	6.5	0.3
E 製造業	100.0	67.5	32.1	15.5	8.6	6.9	4.2	11.1	1.3
F 電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	71.6	28.0	15.8	7.7	8.1	4.0	8.0	0.2
G 情報通信業	100.0	59.7	40.0	17.7	9.2	8.5	5.5	15.9	1.0
H 運輸業、郵便業	100.0	72.2	27.3	16.8	9.2	7.6	3.1	7.0	0.5
I 卸売業、小売業	100.0	71.6	28.1	15.1	8.6	6.5	3.2	9.2	0.6
J 金融業、保険業	100.0	69.5	30.2	14.2	8.0	6.2	3.4	12.1	0.5
K 不動産業、物品賃貸業	100.0	76.2	23.5	13.8	7.6	6.3	3.0	6.5	0.2
L 学術研究、専門・技術サービス業	100.0	67.6	32.1	15.1	8.0	7.1	4.0	11.9	1.1
M 宿泊業、飲食サービス業	100.0	69.9	29.6	16.0	9.3	6.6	2.8	9.9	1.0
N 生活関連サービス業、娯楽業	100.0	71.7	27.9	15.5	8.8	6.7	3.3	8.7	0.4
O 教育、学習支援業	100.0	72.8	27.0	13.8	7.5	6.3	3.1	9.2	1.0
P 医療、福祉	100.0	69.4	30.2	17.3	9.4	7.9	4.0	8.6	0.3
Q 複合サービス事業	100.0	73.2	26.7	18.1	9.3	8.8	3.2	5.4	0.0
R サービス業（他に分類されないもの）	100.0	74.2	25.4	14.8	8.2	6.6	3.0	7.1	0.4
S 公務（他に分類されるものを除く）	100.0	65.6	34.0	15.8	7.5	8.4	4.7	13.1	0.3
T 分類不能の産業	100.0	57.9	17.4	9.8	6.2	3.7	1.7	5.0	0.9

1) 5年前の常住地「不詳」で、当地に現住している者を含む。

## 5 行政区別の5年前の常住地

### 移動率が高い都筑区

行政区別に5年前の常住地が現住所以外の者の割合をみると、都筑区の30.5%が最も高く、西区の29.6%、港北区の27.7%と続いています。一方、最も低いのは旭区の19.8%となっています。

これを5年前の常住地別にみると、「自区内」での移動は青葉区(8.8%)、「他区」は西区(9.4%)、「県内」も西区(3.4%)、「他県」は港北区(11.3%)、「国外」は中区(1.7%)が最も高くなっています。

(表11-5)

表11-5 行政区、5年前の常住地別5歳以上人口(平成22年)

行政区	常住者 1)	5年前の常住地							
		現住所	現住所以外(移動者)						
			総数	市内			県内 から	他県 から	国外 から
総数	自区内	他区							
実数									
横浜市	3,504,975	2,383,891	844,795	467,304	270,170	197,134	92,925	259,336	25,230
鶴見区	257,454	170,171	60,545	29,896	21,699	8,197	8,049	20,849	1,751
神奈川区	221,956	139,395	59,682	31,270	15,866	15,404	5,586	21,329	1,497
西区	89,863	52,153	26,583	13,778	5,300	8,478	3,086	8,771	948
中区	133,346	78,792	33,554	19,404	11,150	8,254	2,753	9,101	2,296
南区	187,818	130,704	40,564	25,755	13,553	12,202	3,658	9,738	1,413
港南区	212,543	154,828	45,057	29,045	15,946	13,099	3,996	11,121	895
保土ヶ谷区	197,924	139,604	42,877	25,494	12,388	13,106	3,777	12,276	1,330
旭区	240,695	178,629	47,620	31,939	17,827	14,112	4,863	9,946	872
磯子区	156,068	108,981	33,860	21,423	10,778	10,645	2,984	8,506	947
金沢区	199,776	146,760	43,010	24,062	15,892	8,170	5,591	12,185	1,172
港北区	312,893	194,148	86,539	39,361	25,653	13,708	9,032	35,355	2,791
緑区	169,006	114,688	41,787	24,212	12,827	11,385	4,401	12,328	846
青葉区	290,104	187,775	78,873	33,819	25,435	8,384	9,957	31,395	3,702
都筑区	186,267	115,191	56,867	28,393	15,957	12,436	6,380	20,347	1,747
戸塚区	260,599	184,219	64,499	36,976	21,004	15,972	7,354	18,754	1,415
栄区	119,334	87,963	26,320	15,432	8,419	7,013	4,028	6,344	516
泉区	148,281	110,354	31,285	20,183	10,752	9,431	3,939	6,396	767
瀬谷区	121,048	89,536	25,273	16,862	9,724	7,138	3,491	4,595	325
割合(%)									
横浜市	100.0	68.0	24.1	13.3	7.7	5.6	2.7	7.4	0.7
鶴見区	100.0	66.1	23.5	11.6	8.4	3.2	3.1	8.1	0.7
神奈川区	100.0	62.8	26.9	14.1	7.1	6.9	2.5	9.6	0.7
西区	100.0	58.0	29.6	15.3	5.9	9.4	3.4	9.8	1.1
中区	100.0	59.1	25.2	14.6	8.4	6.2	2.1	6.8	1.7
南区	100.0	69.6	21.6	13.7	7.2	6.5	1.9	5.2	0.8
港南区	100.0	72.8	21.2	13.7	7.5	6.2	1.9	5.2	0.4
保土ヶ谷区	100.0	70.5	21.7	12.9	6.3	6.6	1.9	6.2	0.7
旭区	100.0	74.2	19.8	13.3	7.4	5.9	2.0	4.1	0.4
磯子区	100.0	69.8	21.7	13.7	6.9	6.8	1.9	5.5	0.6
金沢区	100.0	73.5	21.5	12.0	8.0	4.1	2.8	6.1	0.6
港北区	100.0	62.0	27.7	12.6	8.2	4.4	2.9	11.3	0.9
緑区	100.0	67.9	24.7	14.3	7.6	6.7	2.6	7.3	0.5
青葉区	100.0	64.7	27.2	11.7	8.8	2.9	3.4	10.8	1.3
都筑区	100.0	61.8	30.5	15.2	8.6	6.7	3.4	10.9	0.9
戸塚区	100.0	70.7	24.8	14.2	8.1	6.1	2.8	7.2	0.5
栄区	100.0	73.7	22.1	12.9	7.1	5.9	3.4	5.3	0.4
泉区	100.0	74.4	21.1	13.6	7.3	6.4	2.7	4.3	0.5
瀬谷区	100.0	74.0	20.9	13.9	8.0	5.9	2.9	3.8	0.3

1) 5年前の常住地「不詳」で、当地に現住している者を含む。

## 6 転入率・転出率

### 横浜市の転入超過の幅は10年前より拡大

横浜市に常住している5歳以上人口(3,504,975人)のうち、5年前は市外(国外を除く)に住んでいた「転入者」は352,261人で、「転入率」(5歳以上人口に占める転入者の割合)は10.1%となっています。一方、現在は市外(国外を除く)に常住していて5年前は横浜市に住んでいた「転出者」は317,058人で、「転出率」(5歳以上人口に占める転出者の割合)は9.0%となっています。この結果、横浜市のこの5年間の移動状況は35,203人の転入超過で、転入率から転出率を差し引いた転入超過率は1.0%となっています。

平成12年と比べると、転入者は82,822人、転出者は86,215人の減少、転入超過数は3,393人の増加となっています。転入超過率は1.0%で平成12年と同じ値となっています。(表11-6)

### 人口移動が激しい西区

転入率と転出率を行政区別にみると、転入率は、西区が22.6%と最も高く、都筑区の21.0%、神奈川区の19.1%と続いています。

転出率は、西区が16.93%と最も高く、青葉区の16.87%、港北区の16.6%と続いています。

転入超過率は都筑区の6.5%、転出超過率は磯子区の1.4%が最も高くなっています。

人口移動の激しさの度合いを示す「転入率+転出率」(5歳以上人口に占める転入者と転出者を合計した人口の割合)をみると、西区が39.6%と最も高く、都筑区の35.5%、港北区の35.1%と続いています。

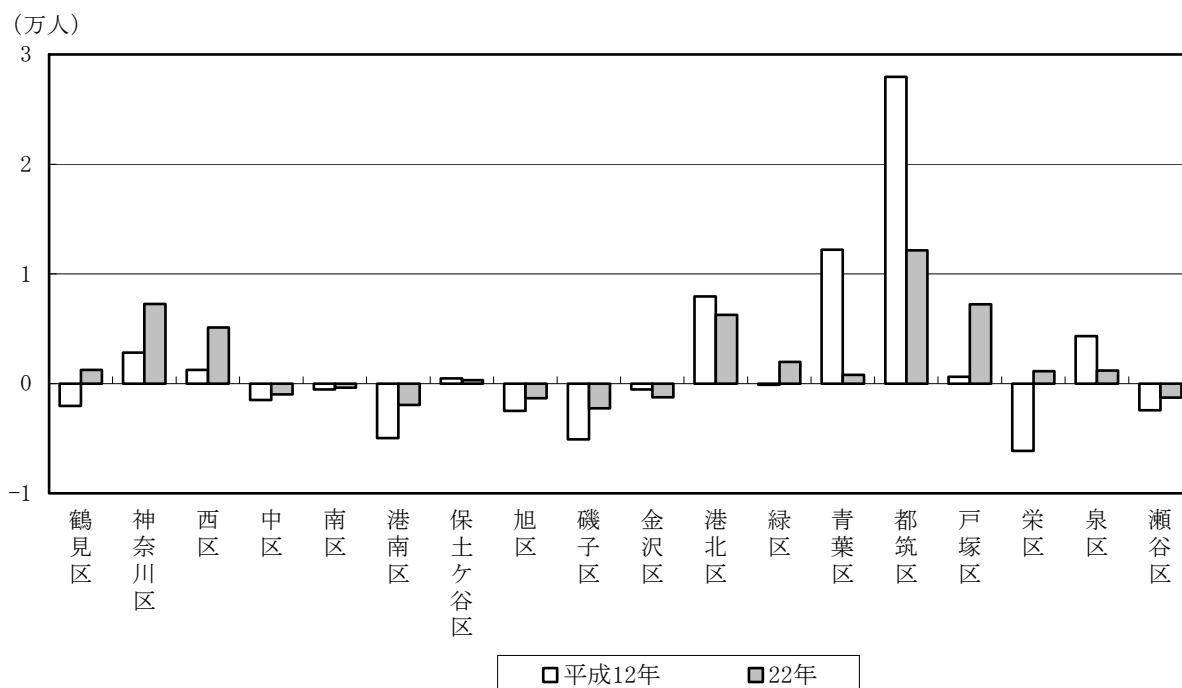
(表11-6、図11-3)

表 11-6 横浜市の転入率及び転出率（平成 12 年、22 年）

年次、 行政区	常住者 (5歳以上) 1)	転入者 2)		転出者		転入超過数 3)		転入率 + 転出率 (%)
		転入者 2)	転入率 (%)	転出者	転出率 (%)	転入超過数 3)	転入 超過率 (%) 3)	
平成12年 4)	3,251,472	435,083	13.4	403,273	12.4	31,810	1.0	25.8
22年 4)	3,504,975	352,261	10.1	317,058	9.0	35,203	1.0	19.1
鶴見区	257,454	37,095	14.4	35,845	13.9	1,250	0.5	28.3
神奈川区	221,956	42,319	19.1	35,064	15.8	7,255	3.3	34.9
西区	89,863	20,335	22.6	15,213	16.9	5,122	5.7	39.6
中区	133,346	20,108	15.1	21,083	15.8	△ 975	△ 0.7	30.9
南区	187,818	25,598	13.6	25,978	13.8	△ 380	△ 0.2	27.5
港南区	212,543	28,216	13.3	30,174	14.2	△ 1,958	△ 0.9	27.5
保土ヶ谷区	197,924	29,159	14.7	28,855	14.6	304	0.2	29.3
旭区	240,695	28,921	12.0	30,251	12.6	△ 1,330	△ 0.6	24.6
磯子区	156,068	22,135	14.2	24,380	15.6	△ 2,245	△ 1.4	29.8
金沢区	199,776	25,946	13.0	27,202	13.6	△ 1,256	△ 0.6	26.6
港北区	312,893	58,095	18.6	51,833	16.6	6,262	2.0	35.1
緑区	169,006	28,114	16.6	26,145	15.5	1,969	1.2	32.1
青葉区	290,104	49,736	17.1	48,929	16.9	807	0.3	34.0
都筑区	186,267	39,163	21.0	27,034	14.5	12,129	6.5	35.5
戸塚区	260,599	42,080	16.1	34,864	13.4	7,216	2.8	29.5
栄区	119,334	17,385	14.6	16,252	13.6	1,133	0.9	28.2
泉区	148,281	19,766	13.3	18,575	12.5	1,191	0.8	25.9
瀬谷区	121,048	15,224	12.6	16,515	13.6	△ 1,291	△ 1.1	26.2

- 1) 5年前の常住地「不詳」で、当地に現住している者を含む。
- 2) 「国外」は含まない。
- 3) マイナスは転出超過。
- 4) 市全体の転入者及び転出者には、区間移動は含まれない。

図 11-3 行政区別転入超過数（平成 12 年、22 年）





## 7 転入者・転出者の住所地

### 転入者は県内・他県共に減少

転入者（352,261人）について地域別に5年前の常住地をみると、東京都からの転入者が75,310人（転入者総数の21.4%）、県内の隣接6市からの転入者が65,141人（同18.5%）となっており、この2区分で転入者全体の約4割を占めています。

平成12年と比べると、転入者は全ての区分において減少しており、82,822人（19.0%）の減少となっております。増減率をみると、鎌倉市の28.9%減が最も大きく、次いで千葉県28.0%減、川崎市の27.4%減となっております。（表11-7）

### 転出者も県内・他県共に減少

転出者（317,058人）について現在常住している地域別にみると、東京都への転出者は71,319人（転出者総数の22.5%）、県内の隣接6市への転出者は65,706人（同20.7%）で、この2区分で転出者全体の4割以上を占めています。

平成12年と比べると、転出者は全ての区分において減少しており、86,215人（21.4%）の減少となっております。増減率をみると、横須賀市の38.7%減が最も大きく、次いで相模原市の31.9%減、逗子市の31.2%減となっております。（表11-7）

表11-7 地域別転入者及び転出者数（平成12年、22年）

地 域	転 入 者						転 出 者					
	実 数		割合 (%)		平成12年～22年		実 数		割合 (%)		平成12年～22年	
	平成12年	22年	12年	22年	増減数	増減率 (%)	平成12年	22年	12年	22年	増減数	増減率 (%)
総数	435,083	352,261	100.0	100.0	△82,822	△19.0	403,273	317,058	100.0	100.0	△86,215	△21.4
県内 1)	122,545	92,925	28.2	26.4	△29,620	△24.2	123,760	97,499	30.7	30.8	△26,261	△21.2
隣接6市	87,385	65,141	20.1	18.5	△22,244	△25.5	82,293	65,706	20.4	20.7	△16,587	△20.2
川崎市	49,969	36,259	11.5	10.3	△13,710	△27.4	38,917	33,738	9.7	10.6	△5,179	△13.3
横須賀市	12,887	9,702	3.0	2.8	△3,185	△24.7	12,550	7,699	3.1	2.4	△4,851	△38.7
逗子市	1,962	1,439	0.5	0.4	△523	△26.7	2,486	1,710	0.6	0.5	△776	△31.2
鎌倉市	6,785	4,826	1.6	1.4	△1,959	△28.9	6,937	5,326	1.7	1.7	△1,611	△23.2
藤沢市	9,040	7,785	2.1	2.2	△1,255	△13.9	11,638	9,638	2.9	3.0	△2,000	△17.2
大和市	6,742	5,130	1.5	1.5	△1,612	△23.9	9,765	7,595	2.4	2.4	△2,170	△22.2
他の市町村	35,160	27,480	8.1	7.8	△7,680	△21.8	41,467	31,793	10.3	10.0	△9,674	△23.3
相模原市	8,677	7,157	2.0	2.0	△1,520	△17.5	11,695	7,963	2.9	2.5	△3,732	△31.9
他県	312,538	259,336	71.8	73.6	△53,202	△17.0	279,513	219,559	69.3	69.2	△59,954	△21.4
東京都	95,215	75,310	21.9	21.4	△19,905	△20.9	85,381	71,319	21.2	22.5	△14,062	△16.5
特別区部	69,516	55,498	16.0	15.8	△14,018	△20.2	58,203	48,411	14.4	15.3	△9,792	△16.8
町田市	6,503	4,962	1.5	1.4	△1,541	△23.7	9,954	9,592	2.5	3.0	△362	△3.6
千葉県	26,421	19,025	6.1	5.4	△7,396	△28.0	27,492	20,209	6.8	6.4	△7,283	△26.5
埼玉県	21,951	16,971	5.0	4.8	△4,980	△22.7	20,217	15,165	5.0	4.8	△5,052	△25.0
その他の道府県	168,951	148,030	38.8	42.0	△20,921	△12.4	146,423	112,866	36.3	35.6	△33,557	△22.9

1) 平成22年については、5年前の常住地が県内で5年前の常住市区町村「不詳」を含む。

表 11-8 転入・転出先の市区町村順位 (平成 22 年)

(転入：5年前の住所地上位20市区町村)

(転出：現住所上位20市区町村)

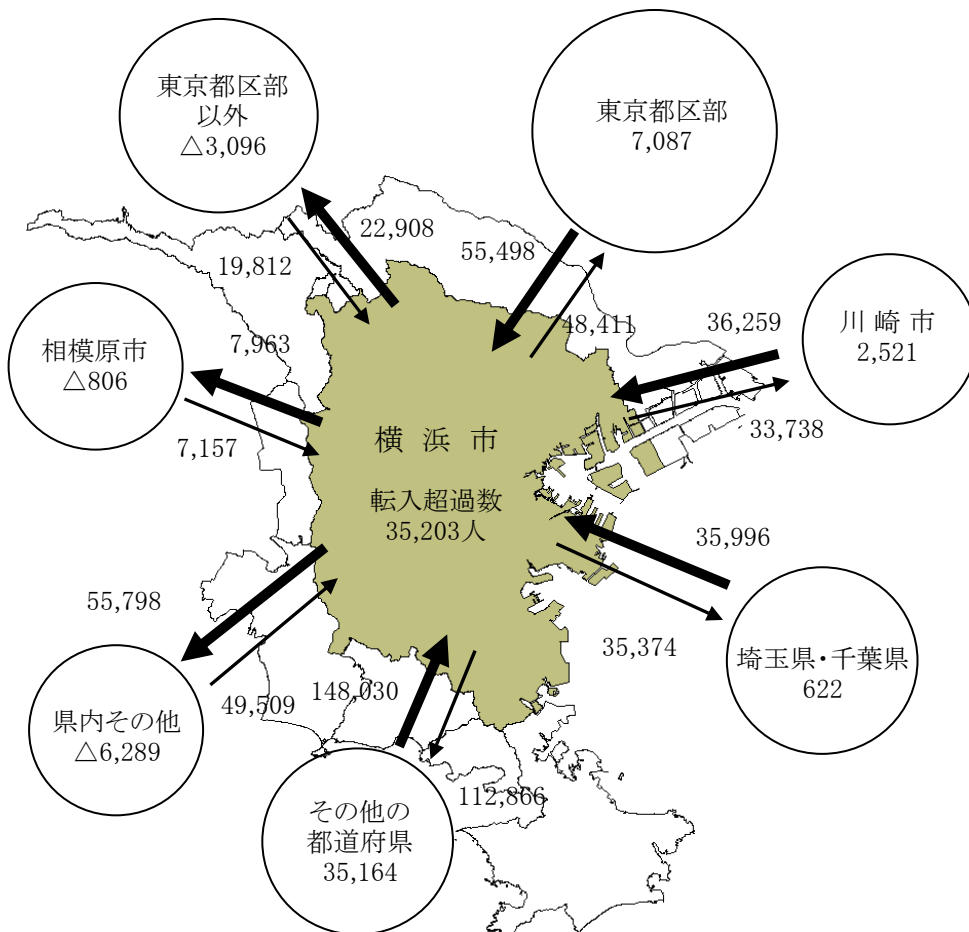
市区町村	転入者数	前回比	増減率 (%)	前回順位
1 川崎市	36,259	△ 13,710	△27.4	1
2 大田区	10,489	△ 2,683	△20.4	2
3 横須賀市	9,702	△ 3,185	△24.7	3
4 世田谷区	8,744	△ 3,170	△26.6	4
5 藤沢市	7,785	△ 1,255	△13.9	5
6 相模原市	7,157	△ 1,520	△17.5	6
7 名古屋市	6,761	△ 270	△3.8	7
8 札幌市	5,263	△ 178	△3.3	11
9 大和市	5,130	△ 1,612	△23.9	9
10 町田市	4,962	△ 1,541	△23.7	10
11 鎌倉市	4,826	△ 1,959	△28.9	8
12 仙台市	4,709	△ 329	△6.5	13
13 福岡市	4,540	84	1.9	16
14 品川区	4,285	△ 880	△17.0	12
15 さいたま市	4,029	—	—	—
16 大阪市	3,498	△ 184	△5.0	20
17 目黒区	3,459	△ 1,069	△23.6	14
18 千葉市	3,262	△ 1,246	△27.6	15
19 杉並区	3,124	△ 1,181	△27.4	17
20 神戸市	3,066	△ 262	△7.9	21
(再掲)				
— 東京都区部	55,498	△ 14,018	△20.2	—

市区町村	転出者数	前回比	増減率 (%)	前回順位
1 川崎市	33,738	△ 5,179	△13.3	1
2 藤沢市	9,638	△ 2,000	△17.2	4
3 町田市	9,592	△ 362	△3.6	5
4 相模原市	7,963	△ 3,732	△31.9	3
5 横須賀市	7,699	△ 4,851	△38.7	2
6 大和市	7,595	△ 2,170	△22.2	6
7 世田谷区	7,218	△ 2,465	△25.5	7
8 大田区	7,043	△ 2,628	△27.2	8
9 名古屋市	5,343	△ 757	△12.4	10
10 鎌倉市	5,326	△ 1,611	△23.2	9
11 品川区	4,124	△ 132	△3.1	14
12 茅ヶ崎市	3,892	△ 1,239	△24.1	11
13 さいたま市	3,781	—	—	—
14 江東区	3,574	1,460	69.1	33
15 福岡市	3,559	△ 60	△1.7	17
16 札幌市	3,336	△ 1,323	△28.4	13
17 千葉市	3,170	△ 1,514	△32.3	12
18 仙台市	3,117	△ 1,091	△25.9	15
19 平塚市	2,845	66	2.4	26
20 大阪市	2,640	237	9.9	30
(再掲)				
— 東京都区部	48,411	△ 9,792	△16.8	—

注) 東京都区部は、区ごとに表章した。

注) 東京都区部は、区ごとに表章した。

図 11-4 地域別転入・転出者数 (平成 22 年)



## 8 行政区別の転入・転出状況

### 東京都区部が転出先の第2位以内が12区

行政区別に転入者の5年前の常住地をみると、本市の転入者全体（国外を除く）の15.8%を占める東京都区部からの転入者が全ての区で4番目以内に入っており、特に、鶴見区、神奈川区、西区、中区、港北区及び青葉区の6区において割合が10%を超えています。このほか、川崎市からの転入者が多く、8区で4番目以内に入っています。本市内の他区からの移動をみると、おおむね隣接区からの転入者が上位を占めています。

一方、転出者の転出先をみると、本市の転出者全体（国外を除く）の15.3%を占める東京都区部への転出者が全ての区で4番目以内に入っており、特に、鶴見区、神奈川区、中区、港北区及び青葉区の5区において割合が10%を超えています。このほか、川崎市への転出者が多く、7区で4番目以内に入っています。本市内から他区への移動をみると、おおむね隣接区への転出者が上位を占めています。

（表11-10、11-11）

### 区間移動は「港北区→都筑区」の移動が最多

5年前の常住地人口のうち、「市内他区」（197,134人）のみを取り出し、横浜市内における人口の行政区間の移動状況をみると、「港北区から都筑区へ」の移動が3,264人と最も多く、次いで「港北区から神奈川区へ」の移動が3,056人となっています。また、2位と3位の「神奈川区と港北区」間、4位と8位の「青葉区と都筑区」間、6位と10位の「戸塚区と泉区」間の移動が多くなっています。（表11-9）

表11-9 本市における区間移動の順位  
（平成22年）

	（移動前）	（移動後）	移動人口
1	港北区	→ 都筑区	3,264
2	港北区	→ 神奈川区	3,056
3	神奈川区	→ 港北区	2,917
4	青葉区	→ 都筑区	2,868
5	保土ヶ谷区	→ 旭区	2,793
6	戸塚区	→ 泉区	2,662
7	青葉区	→ 緑区	2,612
8	都筑区	→ 青葉区	2,527
9	磯子区	→ 港南区	2,438
10	泉区	→ 戸塚区	2,376

図11-5 5年前の常住地が市外（国外除く）の者の割合（平成22年）

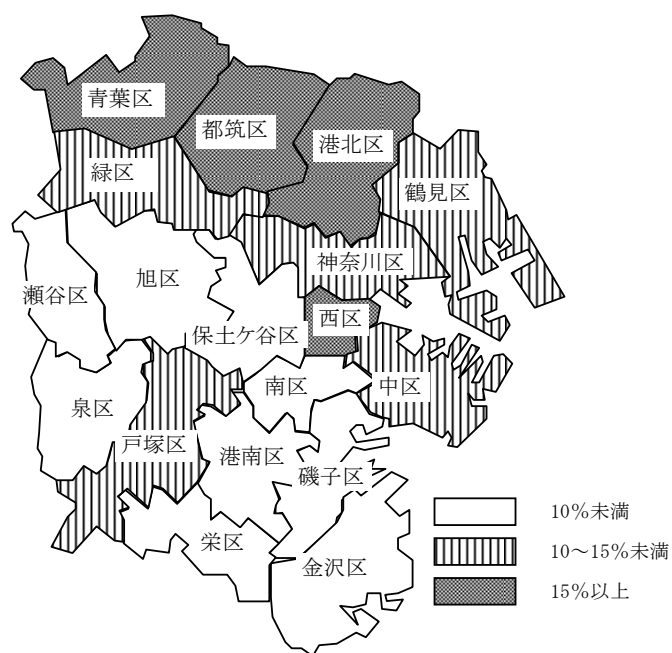


表 11-10 行政区別の転入者の多い地域及びその割合（平成 22 年）

行政区	転入者	転入率 (%)	1 番目に多い 移動前の住所地		2 番目に多い 移動前の住所地		3 番目に多い 移動前の住所地		4 番目に多い 移動前の住所地	
				割合 (%)		割合 (%)		割合 (%)		割合 (%)
鶴見区	37,095	14.4	東京都区部	15.2	川崎市	15.2	港北区	5.2	神奈川区	4.5
神奈川区	42,319	19.1	東京都区部	10.6	港北区	7.2	川崎市	5.0	鶴見区	4.7
西区	20,335	22.6	東京都区部	12.8	神奈川区	6.0	保土ヶ谷区	5.6	中区	4.6
中区	20,108	15.1	東京都区部	13.6	南区	7.9	磯子区	4.8	川崎市	4.5
南区	25,598	13.6	中区	7.8	東京都区部	7.8	港南区	7.6	磯子区	5.4
港南区	28,216	13.3	磯子区	8.6	南区	8.2	東京都区部	7.0	戸塚区	5.3
保土ヶ谷区	29,159	14.7	東京都区部	7.9	旭区	7.4	神奈川区	5.8	西区	4.6
旭区	28,921	12.0	保土ヶ谷区	9.7	瀬谷区	7.1	東京都区部	6.5	川崎市	4.3
磯子区	22,135	14.2	港南区	9.3	金沢区	8.0	南区	7.1	東京都区部	6.7
金沢区	25,946	13.0	横須賀市	9.8	磯子区	7.4	東京都区部	7.1	港南区	4.7
港北区	58,095	18.6	東京都区部	15.4	川崎市	8.9	神奈川区	5.0	鶴見区	3.4
緑区	28,114	16.6	青葉区	9.3	東京都区部	7.8	都筑区	6.2	川崎市	6.2
青葉区	49,736	17.1	東京都区部	14.7	川崎市	13.4	都筑区	5.1	緑区	3.4
都筑区	39,163	21.0	川崎市	10.4	東京都区部	9.2	港北区	8.3	青葉区	7.3
戸塚区	42,080	16.1	東京都区部	8.4	泉区	5.6	港南区	5.1	保土ヶ谷区	4.5
栄区	17,385	14.6	港南区	9.0	戸塚区	7.7	鎌倉市	7.2	東京都区部	6.4
泉区	19,766	13.3	戸塚区	13.5	旭区	6.7	瀬谷区	5.6	東京都区部	5.2
瀬谷区	15,224	12.6	旭区	14.9	泉区	5.9	東京都区部	5.3	大和市	5.3

注) 「国外」は含まない。

表 11-11 行政区別の転出者の多い地域及びその割合（平成 22 年）

行政区	転出者	転出率 (%)	1 番目に多い 移動後の住所地		2 番目に多い 移動後の住所地		3 番目に多い 移動後の住所地		4 番目に多い 移動後の住所地	
				割合 (%)		割合 (%)		割合 (%)		割合 (%)
鶴見区	35,845	13.9	川崎市	14.9	東京都区部	12.0	神奈川区	5.6	港北区	5.5
神奈川区	35,064	15.8	東京都区部	10.3	港北区	8.3	川崎市	5.4	保土ヶ谷区	4.8
西区	15,213	16.9	東京都区部	9.5	保土ヶ谷区	8.8	神奈川区	7.1	南区	5.2
中区	21,083	15.8	東京都区部	10.0	南区	9.4	磯子区	6.9	西区	4.4
南区	25,978	13.8	港南区	8.9	東京都区部	7.2	中区	6.1	磯子区	6.0
港南区	30,174	14.2	東京都区部	7.4	戸塚区	7.1	磯子区	6.8	南区	6.4
保土ヶ谷区	28,855	14.6	旭区	9.7	東京都区部	8.4	戸塚区	6.6	神奈川区	5.2
旭区	30,251	12.6	瀬谷区	7.5	保土ヶ谷区	7.1	東京都区部	6.6	泉区	4.4
磯子区	24,380	15.6	港南区	10.0	金沢区	7.9	東京都区部	7.0	南区	5.7
金沢区	27,202	13.6	東京都区部	9.4	横須賀市	8.2	磯子区	6.5	港南区	4.5
港北区	51,833	16.6	東京都区部	13.9	川崎市	9.7	都筑区	6.3	神奈川区	5.9
緑区	26,145	15.5	東京都区部	7.0	青葉区	6.4	町田市	6.2	川崎市	6.0
青葉区	48,929	16.9	東京都区部	13.8	川崎市	12.6	町田市	6.7	都筑区	5.9
都筑区	27,034	14.5	川崎市	9.8	青葉区	9.3	東京都区部	8.6	緑区	6.5
戸塚区	34,864	13.4	東京都区部	8.4	泉区	7.6	藤沢市	4.8	川崎市	4.6
栄区	16,252	13.6	戸塚区	9.5	港南区	7.1	東京都区部	7.1	鎌倉市	6.0
泉区	18,575	12.5	戸塚区	12.8	藤沢市	6.6	東京都区部	5.8	旭区	5.3
瀬谷区	16,515	13.6	旭区	12.4	大和市	9.3	泉区	6.7	東京都区部	4.9